

YAMATO Nature Circle



2025年4月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.75

— 絵と文 群馬直美 —

無限の可能性《ムベ》

『ムベの葉は、長さ2～5cmほどの柄のある掌状複葉(しょうじょうふくよう)で、
ふつう小葉が5枚つくが、若い枝では3枚、成熟した枝では5枚～7枚の小葉がつく』

「ひい、ふう、みい、よお……」

ヤマトビオトープ園の竹垣で出会ったムベの葉は、全部で7枚の小葉をつけている。
ということは、十分に成熟した枝の葉っぱだ。

どの葉の枯れ方も魅力的。緑の葉っぱに忍び寄る黄色や茶色が、
夕闇迫るようで、ドラマチック。中でも一番私の心を射止めたのは、
『黄色い横顔が浮かび上がる』葉っぱ!

「この葉っぱに我が人生を捧げよう！」

と、いつものように原寸大で見たまま克明に描いたが、

「うーむ、何か物足りない……。やはり、7枚あつてのムベの葉っぱなのだ」

と、他6枚の小葉も登場させることに。

4つの方法が頭に浮かんだ。他6枚の葉を、

1.フルカラーで描く、2.白黒写真で配置する、3.鉛筆で写実的に描く、4.シンプルな線で描く。

1番は、黄色い顔の葉っぱが埋もれてしまう。2番は、よくある感じ。3番は、良いけれどちょっと大変……。

結局お手軽な4番でいくことにしたが、「何で描くか？」でまた迷う。

鉛筆、筆ペン、竹ペン、ガラスペン、水性ボールペン……。

線の太さは? その表情は? 色は? 葉脈をどの程度描くのか、朽ちた部分も描くのか……

ああ、無限の可能性がひしめき合って次々出てくる。

「ええい、細かい描写はなしで、輪郭だけマステドロローイングだ！」

と、生まれ出たのが、今回の表紙絵。

※マステドロローイングとは、作者が開発したマスキングテープを貼って描く手法のこと。

《表紙の絵》ムベの葉っぱ

「憂いを帯びた黄色い女性の横顔。

あっ、口を開けて笑う茶色い横顔も！」

・ヤマトビオトープ園にて 2025.1.20採集
(作品の完成日は2025年2月14日)

・紙(ファブリアーノエキストラホワイト極細目)/
テンペラ・油絵の具・マスキングテープ

・size:333mm×242mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのもの全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の葉の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>